

短根にんじんの栽培と CDU化成の肥効

千葉県山武農業改良普及所松尾支所

深 山 和

山武郡は千葉県の東北部で、九十九里浜のほぼ中央に位置し、気候は温暖で、平坦地はバレイショ、トウモロコシ等の早出し栽培が行われ、台地ではスイカ、メロン、サトイモ、ニンジン等が主として栽培され、どの野菜も特産物として京浜市場を中心に販売されている。

山武郡の夏まき短根にんじん栽培は芝山町、横芝町、山武町を中心に約250ha栽培されている。この地帯は千葉県の農業振興地域に指定されている北総台地で、耕地は、洪積層の壤土からなっており、根菜類の品質のよいものが生産される。特に、にんじんの品質上、色たくが重要視されるが、この地帯から生産されたものは橙紅色があざやかで肌もきれいなため、市場および消費者層にまで人気がある。

昭和38～40年頃より導入され、当初、馬込三寸にんじんが作付されたが、昭和44年からは品質、形状、色たく生産量が優れる黒田五寸系統が主に栽培され、適地適作物として面積は年々増加している。

また、出荷は産地間競争に対処するため、経済連を窓口にして各農協ごとの共計共販体制がしかれ、品質の厳格化をめざしている。特に芝山町では、他産地との競合をさけるため、昭和45年に大型貯蔵庫が建設され出荷の調整を計っている。

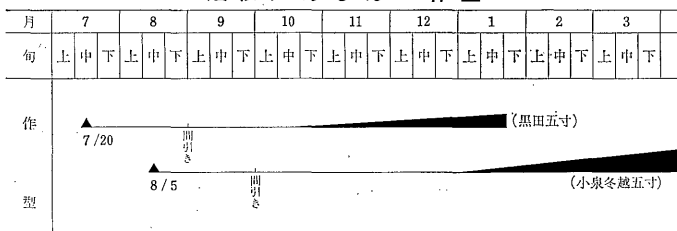
栽培のあらまし

1. 作 型

この地帯の農業経営は、野菜にかかるウェートが高く代表的なものとして、バレイショ+にんじん+スイカの輪作体系が行われている。

作型として、11月～1月上旬に収穫するものは黒田五寸系統（80%）、1月中～4月上旬に収穫するものは小泉冬越五寸（20%）である。

短根にんじんの作型



2. 品種と特性

黒田五寸 夏まき冬どり用で耐暑性があり、品質、形状ともすぐれ収量もある。しかし、肉質が柔く、あまり早まき（6下～7上）すると抽苔の危険性があり、収穫がおくると裂根や根首が変色しやすい。

小泉冬越五寸 根部が吸入型で、地上に露出せず耐寒性が強く形状もよいが、早まきすると病気にかかりやすく着色もやすい。

栽培の概要

1. [土壌消毒]

どんな作物でもいえることであるが、同一圃場に連作すると病虫害の発生が多くなり、ネマトーダや土壌細菌（リゾクトニア）におかされやすい。土壌消毒は、は種の20～30日前にDDまたは、EDB剤のいずれかを、10a当り30ℓくらい使用する。

なおこの際、ガス化の浸透をよくするため適当な水分を必要とするので、出来るだけ雨あがりの日をえらんで処理すると効果が高い。

2. [肥培管理]

最近、地力の低下ということが問題となっているが、出来るだけ畑に有機物を投入したい。しかし、にんじんの栽培上、あまり荒い堆肥源を使うと分岐根が多くなり品質をおとすので、必ず完熟堆肥を使用する。化学肥料は全面散布を行い、は種の7～10日前（ガス抜時）に施す。

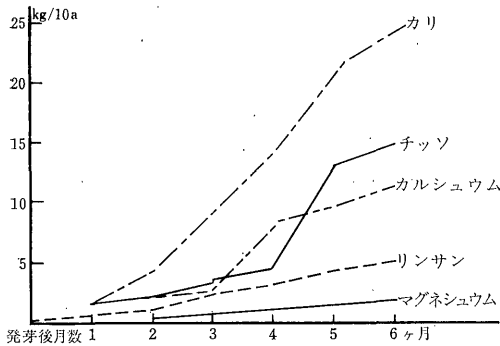
施肥する際、にんじんの種が乾燥期にあたるため、速効性の窒素肥料を多用すると、発芽時のカンバツで濃度障害をおこすので注意したい。当地方では、農協によって内容は多少異なるが、一般にはCDU化成（15：15：15）160K、脱脂糠100K、BMようりん60K、苦土石灰120Kを施している。

五寸にんじんの肥料吸収状態をみると、3要素のなかではカリの吸収量が多く、は種後50～130日頃の吸収が最も多い。また当地方のように火山灰土地帯では、リン酸が欠乏しやすいので、基肥にリン酸肥料を多く施すようにしたい。このようなことから、短根にんじん栽培の肥培管理はリン酸、加里を基肥に、窒素は緩効性のものか、または追肥として補うとよい。

3. [は種]—種子は1～1.5ℓ用意する。

にんじんの種子は発芽率が悪く、しかも当地方のように、は種期が7月中下旬の乾燥期になる場合は、灌水設備さえあれば問題ないが、まきどきをはずさないことが大切である。方法としては、は種前日の夕方、軽く耕うんし、土のかわかない翌朝か、または雨あがり湿度のあるうちに、は種

五寸にんじんの生育期による養分吸収関係



し、足か、ローラで踏圧することが発芽をよくするポイントである。

4. [極端な早まきは抽苔のもと]

当地方での早まきの限界は、7月20日頃で、これ以前にまくと、収穫期以前に抽苔し、品質形状が悪くなる。また遅すぎると生育がおくれ、しり細となり色も出にくくなるので、適期には種したい。

5. [除草剤散布]

は種直後、ゲザミル100gかトレファノサイド300CCを水80~100ℓにとかし、噴霧器で畑全面に散布する。畑が乾燥しているときは、水量を多目にする。

6. [敷わら]

除草剤処理後、発芽時の湿度を保つために、稲わらをうすく全面にしき、風にとばされないよう2mおきにナワをはる。

7. [間引は早めに]

夏まきの短根にんじんは、水分さえあれば生育が早いので、間引きは遅れないようにしたい。にんじんは前にも述べたように、発芽率がよくないので、ある程度あつまきにし、間引きは2~3回に分けて行うとなおよい。第1回目は本葉2~3枚頃株間9センチに2本残し、第2回目は本葉5~6枚目頃1本とする。間引き後追肥の必要があれば単肥配合か、速効性の化成で3~4K施す

8. [病虫害防除は定期的に]

病害としては、黒葉枯病が8~9月上旬の乾燥期に多く発生しやすいので、7~10日ごとにポリオキシソールAL500倍か、ダイセン500倍を散布する。

害虫は、シンクイムシ、キアゲハ、ヨトウムシガ8~10月にかけて多発するので、DDVP、ディフテックスの1,000倍液を散布する。

9. [収穫と調整]

黒田五寸は10月下旬~11月上旬より間引き的に20~30%収穫し、他の株の生育を促す。11月下旬より随時収穫するが黒田五寸は収穫期近くになると、根首が地表に露出

し、放置しておくで青首になりやすいので、11月上旬に最終的な間引きの際、軽く中耕し土寄せを行うとよい。

一日の収穫荷造り労力は、時期によって差があり、年内は1人あたり20~25ケース(10K)、2~3月になると15ケース(10K)前後である。また10a当りの収量は黒田五寸で3,500K、小泉冬越五寸で4,000K前後収穫される。

調整は、葉を切り、にんじん洗い器により表皮がとれるまで充分洗い、水切り後出荷規格にしたがい出荷する

10. [経営評価と今後の問題点]

(1) 10a当りの収益は、表のように粗収益14万円、生産費5万2千円と所得率が比較的高い。

(2) 所要労働人数は10a当り27人で、1日当りの労働報酬も3,300円くらいで有利な作物といえる。また、冬期の収穫出荷作業で農閑期が利用されるので、労働配分が非常によい。

(3) 栽培が容易で、収穫期間が長く融通性にとみ、1戸当りの大面積が可能である。

10a 当り収益性 (昭46)

取 入	項 目	金 額
	収 量	3,500kg
平 均 単 価	粗 収 入	400円
		140,000円
生 産 費	肥 料 代	18,205円
	農 薬 代	7,500円
	種 子 代	2,500円
	手 数 料	7,000円
	容 器 代	10,500円
	農 具 代	4,000円
そ の 他	1,500円	
取 益	小 計	51,205円
	差 引 収 益	88,795円
	勞 働 日 数	27人
	1日当り労働報酬	3,288円

今 後 の 問 題 点

にんじん栽培は、ある程度の連作は土壤も肥沃により、肌もきれいになるためよいが、長年の連作は障害(たとえば、立枯病、腐敗、微量要素欠乏など)が出やすいので、他の野菜との混作も考えなくてはならない。

また、は種期が7月上中旬の乾燥期にあたるので発芽率が悪く、これが収量にも影響するので、畑地かんがい設備が必要である。

あとがき 4月号をお届けします。野行き、山行き、海辺行き……あゝコリヤ、コリヤ……とやりたいところですが、いかがお過ごしですか。(K生)